

経験が子供たちの力になるように

児童施設 施設長 岡野美智子

暑い夏がやってきました。長い間じめじめとした気候が続き、7月末からの夏のキャンプが心配されましたが、大泊職員を中心に、園生、職員とも生き生きと、キャンプの準備に取りかかっています。

今年は学園を離れ、群馬県水上を拠点として、1日目は全員でラフティング、またはキャニオニング、2日目は2つのグループに分かれての活動、3日目は全員で渋川市にある遊園地で遊んできます。2日目のグループ活動の内容は、1つ目のグループは谷川岳登山、2つ目のグループは土合駅から電車で新潟県の湯沢高原へ行き、ロープウェイに乗って雲上からのパノラマを堪能しながらのハイキングです。夜にはキャンプファイヤーをして、日ごろできない体験をする予定です。ご飯作りにも参加してもらい、協力

し合って楽しい行事にしたいと思っております。

以前は、園から離れたキャンプをしておりましたが、ここ数年は、職員、園生の状態などの関係で学園を起点としたキャンプが続いていました。今年には園生の成長もあり、又、ボランティアの方の協力を得て、全員で園を離れ、尚且つ、全員でラフティング・キャニオニングをします。人は経験の中で育っていくものです。この経験が子供たちの力になっていくことと確信しております。保護者の皆様も期待しててください。(キャンプの写真は、9ページに掲載しています)

4月からの石岡特別支援学校への転学は、子供たちにも大変な思いをさせていると感じることがありました。先生や友達と築いた関係は大きいものがあつたのだと今更ながら感じてい

ますが、夏休みを前にする頃より少しずつ落ちつきがみられてきました。

しかし、支援学校の教諭と子供を通して理解しあうことの必要性を感じます。子供の成長は1年無事過ごしたらいというのではなく、未来を見据えながら、現状を把握して、その子に応じての発達を支援していく事が大切で、それは関係の中で築くものです。まず、この子を知ろうとする思いがなくては支援、教育の深みがないと思います。引き続き学校との連携を密にしていきます。

学校を卒業した園生たちもたくましく育っています。毎日の清掃、洗濯、たたみ仕分け、片付け、布団のカバー付け、寝具用意など、この子たちがいなくては生活が回っていきません。お陰様でと感謝するばかりです。今春、卒業した4名も力になっています。今までの学校生活に比べ、やるべきことが増えて戸惑い悩む子もいましたが、今では自主的に作業に取り組みしています。就職したい、働きたいとの希望を持つ子もいますので、個々の課題を

共に確認して前向きに生活して欲しいと思っています。

7月から児童発達支援事業「すとー」とが開始しました。発育や成長に不安、心配のある未就学児(2歳～6歳)を対象に親子分離型での支援を行います。これから幼児さんのにぎやかな声が聞こえるのが楽しみです。入所している園生にもいい影響があると思います。

夏休みの期間に保護者の皆様には、お子様と接点を持っていたたく、可能な限りで結構ですので、外出、面会等をお願いいたしております。子供たちの心の根この部分は親にあります。ご協力ください。

9月28日の児童の運動会、11月9日の収穫祭に夏の経験を経て一段と成長した児童の様子をお見せできたらと思います。

暑い夏、皆様にはお身体に気を付けてお過ごしください。

新しい時代も「未来」らしく

障害者支援センター未来 センター長 松島寿樹

つくほうだより

長い梅雨が明け、本格的な夏がやってきました。皆さま、いかがお過ごしでしょうか？昨年は6月末に梅雨明けし、記録的な猛暑となりましたが、今年のはつきりしない天気が続ぎ、シトシトと雨が降る、梅雨らしい梅雨でした。気温もあまり上がらず、過ごしやすかったのですが、農作業がなかなか進まず・・・と悩ましい日々でした。新たな職員も少しずつ未来の活動に慣れ、利用者との信頼関係も深まってきました。7月には2泊3日の夏季旅行も終え、これからも他の職員や利用者と力を合わせ、楽しみながら日々活動していつてもらいたいと思います。利用者も職員もお互いに育ちあいながら、障害者支援センター未来の次のステップへ向けて、令和という新たな時代も「未来らしく」チャレンジ精神をもって、様々な事に挑戦し一歩一歩進んでいきます。

日中活動に目を向けると、畑では耕作放棄地などを再生して年々耕作面積や活動場所を増やしてきましたが、作物の種類だけでなく質も向上してきているように感じます。4つの班がそれぞれ情報交換しながら作物や品種のすみ分けを行い、時期をずらしたりしながら生産している野菜は、給食で使用する以外にも、関係者に購入していただいたり、近隣のカフェやレストラン、食堂などで使用していただけることが増えてきました。こういった形で我々の活動、利用者の活躍が社会に認知されることを非常にうれしく思います。ますますやりがいを持って活動に取り組むことが出来ますし、新たな挑戦へのエネルギーにもなります。今後引き続き頑張つていきたいと思えます。つくほう米の作付けも無事に終了し、順調に生育しています。これからはイノシ

シの被害に注意ですが、9月の中旬には令和初の新米の販売が出来るかと思えます。

7月10日(水)～12日(金)には第1班が群馬県高崎市～軽井沢方面へ夏季旅行に行ってきました。高崎市の標高1100mという山間にある「わらび平森林公園キャンプ場」をベースキャンプとし、鬼押し出し園や浅間隠山ハイキング、マス釣り、碓氷峠アプトの道ハイキング、峠の釜めし満喫、こんにやくパークなど内容盛りだくさんで楽しみました。3日間、季節外れの肌寒さと雨が降ったり止んだりの生憎の空模様でしたが、全行程を変更することなく楽しめたことは奇跡の様でした。普段生活している家庭やグループホームを離れてキャンプ場で利用者も職員も寝食を共にし、わくわくドキドキしながら絆の深まった3日間となりました。今年もボランティアで参加していただいた方をはじめ、様々な方にご協力をいただき誠にありがとうございました。

よりよい支援の方法を学び、

新たな挑戦を！

グループホームほつとハウス 施設長 岡野真唯

昨年より遅れて、やっと夏らしい

暑さがやってきました。長い梅雨は洗濯物の乾燥に困り、各棟で創意工夫を見せた洗濯物干しを行っていました。今後、雨続きの洗濯問題は取り組む課題の一つとなっています。日々の取り組みの中で、洗濯物干しはみんなで協力して行うことが定着してきました。一人ひとりが部分的にできることに取り組み、みんなの力を合わせることは、食事の配膳や掃除など、様々な場面で見取ることができず。支援者としてはなんとなくやっつけてしまっているところではあるのですが、そこに専門性があると自覚していくことが仕事のやりがいや支援の向上につながるのだろうと考えています。新たな発見をし、小さなことでも新たな挑戦(取り組み)を職員が行なっていく事業所でありたいと

で思います。

7月には、参議院選挙にGHの利用者全員が投票所に行きました。GHとして選挙への参加は2回目でした。数名は投票所の中に入ることを拒否して投票できませんでしたが、前日から「選挙だな」と楽しみにしている方も多くみられました。今回の選挙に参加することについては、職員間で参加する意味や投票の仕方などを話し合いました。障害の有無にかかわらず日本国憲法の下、日本国民には等しく参政権が保障されています。2013年の公職選挙法改正を受け、投票が困難な障害者のために合理的配慮をもって投票を支援することが必要となりました。利用者の方々が権利を行使することは支援者として必要なことだと考え、全員の参加としました。期日前投票と当日投票に

分かれて行きましたが、代理投票のため投票所が締め切りとなり、投票に来た地域の方を待たせてしまうということもありました。選挙公報とは異なる形で名前だけの名簿から選ぶことは、事前に見ていた情報とは異なり困難だったようです。選挙支援についてどのような方法があるのか、支援者として学びが必要であり、今後取り組んでいきます。

東京都国立市にある、日本で最初に開設された知的障害児入所施設である滝乃川学園では、成人部において1974年から投票に参加し、1981年からはすべての選挙において、候補者から直接話を聞く「選挙のお話を聞く会」を行っているそうです。候補者について知る機会の確保も重要です。障害のある方にもわかりやすい公報や直接公約を聞く機会など、公にも働きかけが必要だと思えます。

これからの暑い夏をばてずに元気に快適に過ごすこと、8月の夏休みをどう有意義に過ごすか、そろそろ収穫祭の出し物の練習も…と考える事

やる事は沢山あります。皆様も暑い夏を体に気を付けてお過ごしください。

相談支援内容の紹介 その4

児童編③

相談支援事業所 筑峯学園 所長 武田真浩

梅雨が明け、暑さが増しようやく夏本番といった気候となつてまいりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか？

さて、今回相談支援からは、相談支援の内容について児童編③と題しまして、前回に引き続き子ども相談支援についてお伝えさせていただきます。

テーマは「学校」についてです。前回施設入所についてのお話でしたが、学校に関する相談も施設入所に関する相談と同様に比較的多いテーマの一つです。親御さんにとって、お子さんの就学先選びは非常に大きな決断になるかと思えます。就学先としては、大きく分けて普通学校と特別支援学校があり、普通学校の中には特別支援学級・通級・通常学級と複数の選択肢があります。小学校、中

学校、高校という区切りもあります

が、例えば小学3年生までは普通学校に通っていたが、小学4年生から特別支援学校(変更(転校)するということも可能です。特別支援学級を一つの例として取り出してみても、学校や地域、先生などによって異なる部分があり、我が子にとって何がいいのか？と細かな部分まで考えれば考えるほど、頭を悩ませ判断に迷われる親御さんもいらつしやいます。とても難しい判断になるとは思いますが、それぞれの仕組みや特色、教育環境、メリットやデメリット等をできるだけ詳しく客観的な視点も持って把握した上で、我が子にとっても適していると思われる学校を選ぶことが大切になってくるかと思えます。学校

によってではありませんが、体験入学の日が設定されていることもあります

し、また一般公開日や学園祭の日などに見学に行き、学校の様子をその目で見てみる機会を活用することも判断する上で大きな材料になり得ると思えます。連絡をして了解を得られれば、通常の授業の日でも見学を受け入れてくれることもあります。

子どもの生活全体を考えると、平日の日は学校で過ごす時間が多くを占めており、そういった意味でも学校生活は子どもにとって大切で重要な時間であると思えます。兄弟の有無や人数、家族状況によつても子ども一人ひとりへの考え方は異なりますし、その時だけではなく、将来どのような生活を送ってほしいか、どのような力を身につけてほしいかといった中長期的な視点も判断する上で必要になると思えます。また、ベースになる部分としては、子ども本人が学校へ通うことを楽しみ、学ぶことに前向きに取り組めるかといった本人の視点(思い)も親御さんの思いや考えと同様にとっても大事になります。

学校に関する相談としては、学校

選びについてだけではなく、授業の内容について、担任の先生について、クラスメイトとの関係について、他の保護者方との関わりについて、スクールバス利用や通学方法について等の相談もあります。また、なかなか学校に行けなくなつてしまつていたりした不登校に関する相談もあります。

相談支援としては、親御さんとの面談、お子さんとの面談、学校に出向き担任の先生との面談、親御さんも含めた三者面談等、状況や意向に応じた対応を行なつてきておりますが、まだまだ不十分と感じている部分、対応が至らないと感じている部分も多々あります。今後とも家族やお子さんにとって少しでもお役に立てる相談先として活用していただけるように努めていきたいと思っております。

今回は引き続き児童の相談内容にするか、成人の相談内容に移っていくか、その他にするか、迷つていたりすることがあります。もし、こんなことが知りたい、このような内容について書いてほしいといったご要望がございましたら、

お気軽にお伝えいただけましたらと思います。

しばらく暑い日が続くと思われるので、皆様お身体ご自愛下さい。

新事業、すたーと！

児童発達支援事業すたーと 管理責任者 引田紘介

数年前から児童発達支援事業開始に向けて準備を進めてきましたが、令和元年7月1日付で無事開所を迎える事が出来ました。事業所の名称は、「児童発達支援すたーと」です。

「すたーと」と聞くと、競争のイメージを持つ方もいるかと思いますが、福祉支援の始まり、それぞれのお子様にとつてのより良い最初の支援となればという想いを込めています。児童発達支援は、幼児期の大切な時期をお預かりさせて頂くという事なので、保護者の皆様に安心して預けて頂けるよう、お互いに意見交換を行いながら、目標をもって日々支援していき



の児童発達支援は、親子分離でのお預かりをさせて頂きます。親子分離でお預かりする事によって、保護者の皆様の時間を作り、家事やお仕事、その他リフレッシュの時間等として使って頂けたらと思っています。またお子さんに対しても、親の手から離れて集団に交わる事で、自立を促進し、社会に出る一歩を踏み出す機会となればと思っています。

利用者定員10名、職員も数名という少ない事業所ですので、アットホームな温かい事業所を作りたいと思っています。また、お子様の成長を、保護者の皆様と共に喜び合える職員でありたいとも思っております。



秋の収穫が楽しみです

す。現時点では利用者さんは少ないですが、問い合わせのお電話も頂いております。児童発達支援室から子ども達の元気な声が響き渡るようになってくれればと願っております。

先日はサツマイモの苗を植えました。秋になったら、利用されるお子さんと一緒にサツマイモ掘りをして楽しみたいと思っています。事業が始まったばかりですが、筑峯学園の自然豊かな環境を活かした活動も取り入れ、徐々に活動内容を充実させていきたいと思っています。

職員一同精一杯努力して参ります。よろしくお願致します。

筑峯学園の児童発達支援

すたーと

2019年7月1日新規オープン！

給食
あります

※お弁当持参も可

充実した
活動内容

外遊び・音楽活動
制作活動など

社会福祉法人 筑峯学園は、児童発達支援事業「すたーと」を新たにオープンしました。 发育や成長に不安や心配のある未就学児(2歳～6歳)のお子さまを対象に、将来の自立へ向けて支援をおこなってまいります。

親子分離型
1日療育

9:00～15:00

送迎サービス
あります

※エリアによります。
ご相談ください。

見学・体験受付中！